2019.7　No.72

平和記念だより

◆編集・発行：高松市　人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先：高松市松島町一丁目１５番１号
たかまつミライエ５階
TEL:087-833-2211　FAX:087-833-2244

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

講師：新城　周子さん

令和元年５月１８日(土)、たかまつミライエ１階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第一部「平和を語るつどい」では、新城周子（かねこ）さんを講師にお迎えし、「終戦のわずか一週間前　瀬戸内海の船上での悲劇」～女神丸事件～と題して御講演いただきました。

瀬戸内海の高松沖で起こったこの悲劇は知られておらず、「今回、この講演で初めて知った。」と話される来場者がほとんどでした。多くの来場者が興味を持たれ、講演後も新城さんを囲んでいろいろと質問をされていました。

昭和２０年８月８日、小豆島の土庄港を出港した旅客船「女神丸」は、高松沖でアメリカ軍の機銃掃射を受け、２８人もの犠牲者を出しました。新城さんは、この女神丸での悲劇を後世に伝えていこうと活動を続けられています。

新城さんは、生き残った方々の証言を聞き取りで集めて、「女神丸事件」という本を自費出版されました。この本には、アメリカ軍の機銃掃射、その時の船内の地獄のような様子、操舵を失った船が屋島の浦生（うろ）の海岸に命がけで接岸する様子などが描かれ、臨場感に圧倒されます。

第２部の「憲法記念平和映画祭」では、俳優の向井 理さんの祖父と祖母が歩んだ戦中・戦後の波乱に満ちた道のりを映画化した「いつまた、君と」を上映しました。精一杯生きる主人公の姿に感動し、涙を流す方もおられました。

御多忙の中、約２１０名もの方々に御来場いただき、誠にありがとうございました。

平和を語るつどい・憲法平和映画祭　来場者の感想

たくさんのご意見・ご感想をいただきました！アンケートに御協力いただきありがとうございました。

女神丸事件のことは知りませんでした。貴重なお話を聞くことができ、改めて戦争の悲惨さを知り、二度と繰り返してはいけないと思いました。映画は、苦しい時代を苦労しながら、精一杯生きている姿に感動しました。
（40～50 代・女性）

私も戦争体験者ですが、海の上でこんな悲しい事があったこと、初めて知りました。
新城さん、ありがとうございました。
（70 代・女性）

戦争を語りついでいく必要性は強く感じます。
私個人として、ささやかですが、できることはしていますが、今日のような催しがあっても、若者の参加が少ないのがとても残念です。
子供の頃から、学校や子ども会などを通じて、戦争があったことや内容などを広く伝えていかなければ、また同じことを繰り返していくことになります。若いお母さんたちとお話しても、自分たちのこととしてピンとこないようで残念です。
（60～70 代・女性）

女神丸事件のお話初めて伺いました。とてもつらい話でしたが、身近でおきた実話、本当に涙がでますね。子供にも話したいと思いメモをとりました。ありがとうございました。
（４０～５０代・女性）

戦争の悲惨さ、愚かさ。この一語に尽きる。
（20～30 代・男性）

戦争が過去のこと、現在は平和という認識は正しいのでしょうか？現在の世界で起こっている紛争に、日本がどういう風に関わっているのかを考えなくていいのでしょうか？
（60～70 代・男性）

講演の時間をもう少し長くてもいいかと思いました。高松での戦争のできごとを色々聞きたいです。
（20～30 代・女性）

戦争の記憶を風化させてはいけない。このようなイベントをありがとうございました。さらに若者達に伝えていくためのイベントを続けてほしいと思います。
（60～70 代・女性）

本日のような催し、特に新城さんのお話、同年代の者として身につまされました。
「平和を語る活動」を続けておられる姿に頭が下がります。私も一人でも多くの人に語り継ぎたいです。
（80 代・女性）

香川県に生まれて今日初めて女神丸事件のことを知りました。お話を聞いてその惨状がよくわかり、涙が出てしまいました。まだ知らないことあると思うので、このような講演を続けてほしいです。
（60～70 代・女性）

新城さんの講演、感激しました。もう少し時間をとって頂きたかった。
（60～70 代・男性）

令和元(2019)年度　前期　行事予定

6･7月

● **高松空襲写真展**

６月２８日（金）～７月８日（月）

場　　所　高松市平和記念館　映像学習室

展示内容　高松空襲の被災写真・パネル・絵画

● **高松市戦争遺品展**

７月２３日（火）～７月２９日（月）

場　　所　瓦町 FLAG２階コンコース

展示内容　高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料

8月

● **高松戦災・原爆写真展（高松市・高松市平和を願う市民団体協議会の共催）**

８月８日（木）～８月１４日（水）

場　　所　IKŌDE 瓦町　展示コーナー（瓦町 FLAG8 階）

展示内容　原爆被災写真パネル・ポスターなど

平和学習

高松市平和記念館では、高松市内や近隣市町の小学４年生等を対象に、平和学習を行っています。また、小中学校の修学旅行前の平和学習や保育所・幼稚園等の見学の受入れも行っています。（事前予約必要）

平和学習では、高松空襲を中心に、戦時下の生活や学校教育・戦後の復興などについて、映像や実物資料などを交えながら、分かりやすく説明しています。婦人会・職域などの団体での平和学習にも御利用できますので、ぜひ御活用ください。

収蔵品紹介 62 ≪最近の収蔵品より≫

出征国旗（しゅっせいこっき）・武運長久（ぶうんちょうきゅう）

提供者　多田　毅　様

「出征国旗」とは、召集令状が届き、兵士として戦地に赴（おもむ）く肉親に対し、家族や親戚、級友、会社の同僚、近所の人たちが、日の丸（日章旗）に寄せ書きをして贈ったものです。

この「出征国旗」は、提供者の父親が出征する際に、勤務先の職場仲間から贈られたもののようです。

寄せ書きには、各自の名前のほか、「武運長久」や「義烈奉公」、「義勇奉公」、「祈健康」、「頑張れ」、「此（この）一戦」等の文字が見られます。「出征国旗」に、必ずと言って良いほど寄せ書きされた言葉が「武運長久」でした。

「武運長久」の言葉には、「頑張って戦って」以外に、「兵士の末長い無事を祈る」や「駆り出された者たちの命の安全を願う」という意味が込められており、ほとんどの兵士が「武運長久」の言葉が入った日章旗を携えて出征していきました。

しかし、「出征国旗」には、情報統制の意味から、出征の日付や部隊名などは書かれませんでした。

当時、いわゆる赤紙と呼ばれる召集令状が届いた男性は、健康状態に余程の問題が無い限り、それを断ることはできませんでした。召集令状が来たら、兵士として戦争に行くのは国からの絶対的な命令とされました。「行きたくない」は通用せず、召集令状を拒否すれば逮捕され投獄されました。

日本の国全体が戦争一色となり、「お国のために死んで帰ってこい」という時代であったため、露骨に「死にたくない」、「生きて帰って来て」などといった発言はできませんでした。

編集メモ

戦後７４年を経過しようとし、戦争を知らない世代が大半となり、戦争の記憶や平和の大切さを継承していくことが大きな課題となっています。私たちには、現在の日本の平和と繁栄の背景に、多くの先人の尊い犠牲があったことを忘れず、悲惨な戦争を二度と繰り返すことのないよう、戦争の悲惨さと平和の尊さを未来へと語り継いでいく責任があるのではないでしょうか。

「令和元（２０１９）年度　前期　行事予定」の欄に記載のとおり、平和記念館では６月２８日から８月にかけて、各種の啓発ベントを開催いたします。お近くにお越しの際は、ぜひお寄りください。

高松市平和記念館　開館時間：９時～17 時　休館日：毎週火曜日　入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html